

天の配慮

Heavenly Providence

Comprehensive Health Care Development Based on Natural Providence

命の源流を探る

自然摂理は永久の真理

唾液イオン反応



はじめに

地球誕生から46億年、人間がこの地球上に創造されてから数百万年。

人間の営みはまず口から始まり、排泄に終わります。

一人ひとりの体には、それぞれ一つとして同じでないDNA(固有の遺伝子)を持っています。

それは、まるで個性豊かな小宇宙の存在を再現しているようです。人間の体は自然が作った最高傑作であると実感してきました。

今日に至るまで生命を存続するために「食」を摂ります。

食を摂るためには必ず口の中に唾液が沸いてきます。

唾液=唾(ツバ)、唾吐(ツバキ)、唾液(ダエキ)は、医学用語です。

唾腺(ツバセン)から口の中に分泌する無色透明の粘液で消化を助ける作用をします。

手にツバする(いよいよ仕事に取りかかる意気込みを示す意)。天を仰いでツバする(人を陥れようとして却って自分が失敗する)。眉唾(まゆつば)だまされないように眉にツバをつけて用心する。

眉唾物(まゆつばもの)正しいかどうか疑わしい物。また、ツバを涎(ヨダレ)とも言う。

涎を垂らす(欲しくてたまらない様子)。このように人の動作に唾がさまざまな表現として使われています。

ツバが出る。あまりにも当たり前のことすぎて人々の関心も素通りにしています。

なにを、いまさら「唾液」なのと思われるかもしれませんが、今日まで、簡便に唾液情報を受け止め、医療従事者だけでなく一般人に向けて、リアルタイムに体内情報を得る手段と方法が提供されてこなかったのです。

もし、口の中に唾液が出なかったらどうなるでしょう。いまさら何を言いたいのか、と思われるかも知れませんが、この切るに切れない係わりのある唾液にしばらく想いをめぐらしてみましよう。

もし、この唾が出なかったら食べることも出来ない!喋ることも出来ない!歌うことも出来ない!食べたものが血や肉にもなれない!

歯科医は、歯科治療の際、こんなに邪魔になるものはないと断言する歯科医であっても、これが出なかったら、と自問自答をしているそうです。

歯科治療をしていると唾液が噴水の様にピューッと飛び出すそうです。

私は、1944年(昭和19年)現、東邦大学医学部の生化学の研究室に入り薬理作用の臨床研究・実験に着手しておりました。